

研修会に係る実践事例



推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。



実践事例

墨田区立東吾嬬小学校

【実践の概要】

ウサギの飼育環境の管理について、管理職、飼育委員会担当教諭、低学年担当教諭を対象に、学校担当獣医師から具体的に話をさせていただきました。



手術後のウサギの様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ウサギの抱っこの仕方、爪切りの仕方、飲む水の量の把握、「チモシー」と固形のエサのバランスなどについて教えていただきました。
- 11月には、ウサギの繁殖制限処置の手術について教えていただきました。
- 1月に学校担当獣医師の紹介を受けて、別の獣医師に手術をしていただきました。
- 手術後のウサギの体調管理について、薬の投与、青菜の与え方等について教えていただきました。

【教員の反応】

- 本校のウサギは大変臆病であることが分かり、少しずつ、人に触られることに慣れさせていく必要性が分かりました。
- ウサギの飼育環境の管理について、飼育委員会の児童に自信をもって教えることができました。
- 手術後、元気がなかったウサギが、快復後は「チモシー」を食べる量が増え、活発に動くようになったのを見て、手術をしてよかったと思いました。



実践事例

世田谷区立松沢小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師をお招きし、ウサギの飼育方法についてお話を伺いました。
- 餌や飼育環境について、良い点や改善点を教えていただきました。
- 第1学年生活科の動物のふれあい学習をどのように進めていくのか、注意事項等を教えていただきました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 教員から獣医師へ質問し、それに回答していただくことで、今後の動物との関わり方や飼育環境について、具体的な改善案や方法を知ることができました。

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から指導を受け、学校での適切な飼育活動における基本的な知識を身に付けることができました。
- 動物飼育を担当することは初めてでしたが、良い点や改善点も教えていただいたことで、不安が解消しました。
- 事前に、ふれあい学習の進め方や注意事項等を細かく教えていただいたことで、当日もスムーズに進行することができました。



実践事例

中野区立美鳩小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師をお招きし、教員を対象にモルモットの飼育などの学校における動物飼育の意義や目的などを学ぶ研修会を実施しました。
- モルモットの病気や食べ物などの具体的な例を学校担当獣医師から教えていただきました。
- モルモット飼育を通じた児童への指導について、過去の事例を基に様々なことを助言していただきました。



モルモットの病気について教えていただきました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育を開始してから3か月後に、2度目の研修会を行いました。研修会前に第2学年の児童や担任教員より、疑問点などを伝え、研修会で助言をいただきました。
- 具体的な助言をいただいたことで、第2学年の担任教員が適切に飼育ができているかを確認する機会を作ることができました。



【教員の反応】

- 学校担当獣医師からの指導を受け、モルモットの生態について児童だけでなく教員も詳しく知ることができました。
- 複数の学校担当獣医師が研修会に参加してくださったことで、質問に対して様々な角度からお答えしていただき、モルモット飼育に対する自信をもつことができました。



実践事例

青梅市立河辺小学校

【実践の概要】

冬休みに入る前に、教員を対象とした、研修会を行いました。学校担当獣医師から、学校で動物を飼育することの意味や、動物と触れ合うことの効用、動物飼育の留意点などいろいろ教えていただきました。



獣医師の先生が用意してくださった、ウサギの巣箱

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師から、主に、次のことを教えていただきました。

○ 学校で動物を飼育することの意味

動物は、人に癒しを与え、動物との触れ合いによって心を開く子供もいることを改めて考えました。動物の病気や死を通して、命について考えたり、大切にしようとする気持ちが育まれたりする、教育的な意味も理解しました。また、世話をすることを通して責任感が芽生え、自律した生活を行うようになった事例も伺いました。

○ 動物飼育の留意点

清潔な環境を保つためには、児童任せにせず、教員も掃除をして衛生管理をしていく必要があることを再認識しました。本校のウサギは高齢であることから、健康状態を見ていくことの大切さや、エサの量や与え方についても学びました。また、気温が下がってきた時の対応方法も教えていただきました。

【教員の反応】

- 飼育委員担当の教員だけにウサギの世話を頼むのではなく、教職員全体で、飼育する必要があると感じました。
- ウサギにとって快適な環境を整えることが大切だと思いました。
- 動物飼育を教育的な目的にも活用していきたいです。



実践事例

多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

校内で飼育する動物は、教育活動の中に生かすことで大きな効果を生みます。着をもって接することで、距離が縮まり、共生するものという意識が児童に生じるはず。それが人を含めた生き物にやさしく接するということにつながります。また、その過程では、ぜひ飼育動物の「死」にも関わらせたいと考えています。「死」を目の当たりにするからこそ、大切にしようという思いが育まれるはずであり。愛着が生まれるはず。です。

学校の取り組み方として、世話は児童だけではなく、保護者や地域の方もできるとよいと思います。学校の負担軽減もあるが、児童の周りの人々優しい気持ちをもつことができます。



人と動物の関わり方の一例紹介

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

1月に教員対象の動物飼育研修会講師として学校担当獣医師に講義をお願いしました。単に学校で動物を飼っているということではなく、その必要性和可能性についてお話ししていただきました。また、保護者や地域との連携を飼育活動で進めていくことの必要性についてもお話しいただきました。

【教員の反応】

教育活動の中で、どのように活用していこうかという発想が教員に生まれました。2年生に移行したウサギの世話を、次年度どのように次の第2学年に引き継がせるかなど、計画づくりも進みました。また、保護者や地域との飼育連携についても、お便りやホームページでの周知、学校運営協議会での声かけ、口コミ等、協力依頼を発信することにつながりました。